

香港中等教育修了資格試験（HKDSE）の質保証枠組み ： 公平な共通試験を実施するためのガイドライン

張, 凱磊
九州大学

花井, 渉
九州大学

<https://hdl.handle.net/2324/7344028>

出版情報：国際教育文化研究. 24, pp.27-47, 2024. Comparative and International Education,
Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



香港中等教育修了資格試験（HKDSE）の質保証枠組み

－公平な共通試験を実施するためのガイドライン－（訳）

張 凱磊・花井 渉

1 概要

1.1 はじめに

香港では、現行の高等学校制度は 2009 年に導入されている。生徒は、3 年間の中学校教育課程を修了した後、さらに 3 年間の高等学校課程を履修する。この高等学校課程に合わせて、「香港中等教育修了資格試験」（香港中等教育文憑試、Hong Kong Diploma of Secondary Education Examination、以下：HKDSE）が 2012 年より開始されている。

香港試験評価局（香港考試及評核局、Hong Kong Examinations and Assessment Authority）は、豊富な専門知識に基づき、各種共通試験を、高度かつ専門的な水準で実施するための基盤を築いてきた。香港社会全体にとって、HKDSE の各段階での作業において堅実かつ厳密な質保証措置が非常に重要であり、共通試験は香港の教育システムにとって欠かせない要素である。また、HKDSE に参加する受験者にとって、試験は公平かつ質が保証されていることが重要である。

香港試験評価局では、HKDSE の質保証枠組みを策定している。本ガイドラインは、その概略を提供するものである。質保証枠組みを適切かつ専門的に実施するために、その内容は国際的な試験・評価機関によって検証されている。また、香港試験評価局は、毎年実施している試験の経験とステークホルダーからのフィードバックに基づき、質保証と関連手続きを継続的に見直し、その結果に応じて修正を加えている。

1.2 香港中等教育修了資格試験（HKDSE）質保証枠組みの概要

試験後のレビュー

海外の試験問題と答案のレビュー	試験問題の作成
試験後のレビュー 内部監査とリスク管理 試験問題の質審査 内部試験後レビュー会議	試験問題作成の仕組み 機密保持とセキュリティ対策
成績の処理と公表	試験の実施
校内評価（School Based Assessment: SBA） 答案の採点プロセス 水準と成績等級の設定 試験データの質検査 成績と関連する問い合わせの処理 フィードバックサービス	試験規則 共通試験情報センター 共通試験支援システム（Public Examination Supporting System: PESS） 口頭試験録画システム（Oral Recording System: ORS） 現地検査と監査 試験の手続きとセキュリティ対策 特別な教育支援を必要とする受験者のための特別試験手配 試験における異常事態とクレーム対応

質保証枠組みの運用は、HKDSE が以下の目標を達成できるようにすることを目的としている：

水準の維持

試験問題の水準が事前に設定された適切な水準で安定していることを確保する。

規則遵守と質保証

試験が既定の規則と指針に従って、公平かつ信頼できる形で実施されることを確保する。

HKDSE 資格認定

試験データの適切な処理と成績の報告を通じて、信頼性と公平性を確保し、HKDSE の国内外での認定を促進する。

継続的な改善

定期的なレビューと質審査を行ない、さまざまなステークホルダーの意見に応じてサービスを継続的に改善する。

HKDSE の質保証枠組みは、試験運営の 4 つの主要なプロセスに基づいて策定され、それぞれに異

なる質保証措置が適用されている：

試験問題の作成

すべての試験問題は、カリキュラムと評価ガイドライン及び評価シラバスに基づいて作成されている。厳格な試験問題作成の仕組みを通じて、試験問題が適切な水準で、評価の目的を達成できるようにする。

試験の実施

試験の公平性を確保するために、受験者は HKDSE の試験規則に従う必要がある。香港試験評価局では、受験者や学校が試験に関連する事柄を効果的かつ適切に処理できるように、さまざまな支援システムを提供している。試験は、適切な知識とトレーニングを受けた専門の試験担当者によって管理され、実地検査と監査が行われる。香港試験評価局は、試験の完全な機密性を確保するための厳格なセキュリティ対策を実施している。

成績の処理及び公表

香港試験評価局は、各段階において正確に試験の成績を処理して報告する。これには、校内評価の点数調整、採点の質を監視するためのさまざまな質保証措置（例：採点基準の作成やオンライン採点の採用）、基準の設定と維持、成績評価手続き及び試験データの質審査が含まれている。また、試験中の異常事態やクレーム対応、成績の見直しや再評価申請などに対応するための適切な仕組みも設けられている。

試験後のレビュー

試験問題の質審査の仕組みは、試験問題の妥当性、信頼性、公平性を評価し、改善点を探している。さらに、香港試験評価局では、海外からの専門家を招いて、試験問題や答案のレビューを行ない、HKDSE の水準が海外の試験と同等であることを確保する。香港試験評価局は、試験後のレビューの仕組みやさまざまな内部監査を通じて、改善が必要な分野を特定し、HKDSE の実施における主要なリスクが管理され、理想的な水準に達することを確保している。

2 香港中等教育修了資格試験（HKDSE）の科目

HKDSE には、次の 3 種類の科目がある：

A：高校科目

B：応用学習科目

C：その他の言語科目

高等学校のカリキュラムでは、一般的に生徒は 4 つの必修科目（中国語、英語、数学、そして公民・社会発展）を学び、上記のカテゴリーから 2～3 つの選択科目を選ぶ。受験者は最大で 8 科目まで受験することができる。

2.1 A 科目：高校科目

2.1.1 概要

HKDSE の A 科目には、4 つの必修科目と複数の選択科目が含まれている。各科目は、カリキュラム、教育、評価の水準が高いことを保証するために厳格な質保証手順が設けられている。

A 科目のカリキュラムは、カリキュラム開発委員会及びその下部委員会によって策定されている。これらの委員会は、専門家（大学の研究者、校長、教師、専門団体及びカリキュラムと評価の専門家）によって構成され、各科目が専門的な指針に基づいて設計されていることを保証する。すべての科目は、国際的な教育機関による検証を経て、高い国際水準であることが確認されている。香港試験評価局は、共通試験の作成、実施、答案の採点、校内評価の管理及び調整、基準設定と評価、成績処理と公表に関連するすべての手続きを担当する。

2.1.2 カリキュラム評価のガイドライン

高等学校のカリキュラムは、柔軟性、一貫性、多様性に富んでおり、生徒のさまざまな興味、ニーズ、能力に対応している。すべての A 科目には、カリキュラムの評価ガイドラインが用意されており、これらのガイドラインは、カリキュラム開発委員会と香港試験評価局が共同で作成している。各科目のカリキュラム及び評価ガイドラインでは、科目のカリキュラム理念と目的を概説し、カリキュラムの構造、計画、評価及び教育リソースの利用に関する内容を説明している。高等学校のカリキュラムの主要な理念は、カリキュラム、教育と学習の評価が相互に関連している必要があるということである。教師や生徒が平等な立場で対話的に授業を進める戦略は、カリキュラムの不可欠な部分であり、生涯学習と全人教育を促進するために役立っている。評価は、単に生徒のパフォーマンスを判断する手段であるだけでなく、学習を促進する役割も果たすべきである。

2.1.3 評価シラバスの作成

A 科目の評価シラバスは、高等学校科目のカリキュラム評価のガイドラインに基づいて作成されている。評価シラバスの目的は、HKDSE の各科目に関する公開評価の詳細情報と要件を提供することである。各科目の評価シラバスには、評価目標と評価方法が記載されており、共通試験の構成（例：試験問題の数、各問題の評価範囲、各問題の配点割合及び試験時間など）や、校内評価の要件が含まれている。評価シラバスは、教師や学校が関連する高等学校カリキュラムを実施する際の指針となる。

2.1.4 水準と成績等級の設定

HKDSE では、成績は水準参照方式に基づいて報告される。水準参照方式では、あらかじめ定められた能力等級に基づいて受験者の水準が報告される。各能力等級には等級の説明があり、その等級の典型的な受験者がどのような成績を示すべきかが記載されている。受験者の成績は、他の受験者の成

績に影響されることなく、受験者の知識や技能を反映している。この報告方式は、特定の等級を取得した受験者がどの程度の知識や能力を持っているかを明確に示すことができ、関係者にとって理解しやすくなっている。

公民・社会発展科目を除き、HKDSE の成績は、1 級から 5 級に分類され、5 級が最も高く、1 級が最も低い等級となる。5 級を取得した受験者の中で、最も優秀な者には「5**」、次に優秀な者には「5*」が与えられる。1 級以下の成績は評価されず、「UNCL (unclassified)」と表示される。公民・社会発展科目では「達標（基準達成）」の一等級のみが設定され、それ以下の成績は「未達標（未達成）」として報告される。

各 A 科目には、関係者が参照可能な一連の等級説明がある。等級説明では、受験者が知識の理解、概念やスキルの応用、また解釈、分析、統合、評価といった高次の能力、さらにはコミュニケーション能力においてどの程度の成績を示すべきかが記載されている。

水準の設定においては、香港試験評価局において厳格な方法と仕組みを採用しており、設定された基準が適切であり、安定して維持されることを確保している。

毎年の試験終了後、香港試験評価局は A 科目ごとに問題集を出版し、学校、受験者及び関係者が参考にできるようにしている。この問題集には、評価シラバス、試験問題、採点基準、受験者の成績に関するコメントが含まれている。問題集は、香港試験評価局のウェブサイトにある受験者の成績サンプルと併せ、各等級の成績水準を明確に説明するものである。

2.2 B 科目：応用学習科目

2.2.1 概要

応用学習科目に対する質保証は、提供されるカリキュラム（リソース、プロセス、成果を含む）が設定された目標と要件を満たしていることを確保し、ステークホルダーの信頼を得るためのものである。質保証メカニズムの最終目標は次のとおりである：

- ・応用学習科目が、科目設計の原則に基づいて開発されていること。
- ・カリキュラム設計に従って教育が行われていること。
- ・生徒の学習成果が、設定された水準に達していること。

応用学習科目の質保証は、カリキュラム開発委員会の応用学習委員会が監督している。このメカニズムは 3 つの段階に分かれており、それらは「カリキュラム設計」、「カリキュラム教授」、「成績の評価と調整」である。

第 1 段階では、カリキュラム開発部が、応用学習カリキュラム及び評価ガイドライン（高等学校カリキュラム）で定められた学術要件に準拠しているかどうかを評価する。第 2 段階では、香港学術・職業資格認定局が応用学習科目の水準に準拠した教育の質を評価する。第 3 段階では、香港試験評価

局が、各カリキュラム提供機関が提出した評価成績を調整し、6つの学習分野及び各カリキュラムの評価結果が相互に比較可能な水準であることを確保する。

2.2.2 カリキュラム評価のガイドライン

A科目と同様に、応用学習科目にもカリキュラム評価のガイドラインがある（カリキュラム開発委員会及び香港試験評価局が共同で作成）。これにより、カリキュラム提供機関が応用学習科目を設計する際の指針を提供すると同時に、専門的な知識を活用する自由度を確保している。また、このガイドラインは、学校や生徒に応用学習科目の理念や各科目の具体的な内容について明確な情報を提供するものである。

2.2.3 評価の背景と成績調整

応用学習科目の評価では、生徒の知識、技能、価値観及び態度に関するデータを収集し、そして、設定された基準に基づいてその水準を判断する。応用学習科目の評価には、次の2つの主な目的がある：

- ・学習と評価を組み合わせ、学生の学習を促進し、進捗状況を把握すること。
- ・証明書を発行するためのデータ及び情報を提供すること。

通常、同じ応用学習科目については、すべての受験者の累積成績を基にその科目の基準水準が決定され、その受験者グループの達成水準が評価される。全体の成績が適切で水準が一貫していることを確保するため、香港試験評価局はカリキュラム提供機関から提出された評価成績を調整する。

成績調整の過程では、調整の専門チームが各科目の評価成績と選ばれた受験者の課題サンプル（専門家の判断基準に基づく）を審査する。このプロセスでは、評価基準、達成水準及び評価計画の要件が一貫しているかどうかを総合的に判断する。香港試験評価局は、評価及び成績調整の各段階においてカリキュラム提供機関にフィードバックを行ない、評価計画と実施をサポートし、適切な評価判断を行なうことを支援する。

2.2.4 水準と能力の設定

応用学習中国語以外の応用学習科目では、受験者の成績は「達標（達成）」、「達標（達成）並びに優れた成績（I）」、「達標（達成）並びに優れた成績（II）」の3つの水準で報告される。応用学習中国語については、「達標（達成）」と「達標（達成）並びに優れた成績」の2つの水準に分かれる。「達標（達成）」に達しない成績は「未達標（未達成）」として報告される。

各応用学習科目には、「達標（達成）」に相当する成績水準を示す能力記述がある。能力記述は、その成績水準の典型的な受験者が達成すべき能力を説明している。能力記述は一般的なものであり、

特定の受験者の実際の成績を正確に示すものではない。同じ応用学習科目でも、受験者は異なる分野で異なる成績を示す可能性がある。「達標（達成）」の受験者の課題サンプルは、その成績水準の基準を示すために使用される。

「達標（達成）」の水準は、専門家の判断基準によって設定され、「達標（達成）並びに優れた成績(I)」及び「達標（達成）並びに優れた成績(II)」の成績は、HKDSE の A 科目の 3 級及び 4 級以上に相当する水準として設定される。優れた成績の記述は、HKDSE の A 科目に関連する共通の等級記述と一致している。

3. HKDSE 質保証の実施

3.1 試験問題の作成

3.1.1 試験問題作成の仕組み

すべての試験問題は、A 科目のカリキュラム評価のガイドラインと評価シラバスに基づいて作成される。各科目には、問題作成委員会が設置され、試験問題の作成と評価基準の草案作成を担当する。

1 つの科目に複数の試験問題がある場合、各問題の作成は異なる問題作成委員会が担当する。

各問題作成委員会には、通常、試験委員長、問題作成者、問題審査者、香港試験評価局の科目担当者が含まれる。問題の内容や専門的な知識の必要性に応じて、試験委員長や問題作成者などの役割は、複数のメンバーで分担されることがある。問題作成委員会は、大学の研究者、中学校の教師、カリキュラムの専門家で構成され、その学術的知識や教育経験、問題作成・審査の専門性に基づいて選ばれる。香港教育局は、対応する科目の問題作成委員会に公式メンバーとしてカリキュラムオフィサーを指名する。

香港試験評価局は、科目委員会のメンバーや試験委員長/副委員長から問題作成委員会のメンバーを推薦してもらうほか、中学校や大学に対しても定期的に推薦を依頼している。香港試験評価局は、問題作成委員会のメンバーに適切な交代を確保するためのガイドラインを設けており、新たな試験委員が評価の開発に関与する機会を提供している。

問題作成委員会のメンバーは、カリキュラムの範囲、難易度、適切な用語（言葉遣い）がバランスよく調整されていること、またカリキュラムや評価目標と一致していることを確保する。試験問題作成の過程では、試験問題とともに評価基準も作成され、これは評価の焦点となる基準である。評価基準は、採点者が簡単に理解できるようにしつつ、彼らが専門的な判断を活用できる範囲を提供し、一貫した採点基準に基づいて答案を採点できるようにする。問題作成委員会は、試験問題の構成表を作成し、試験の目的と評価の重点をまとめ、試験問題が適切に学習成果と評価目標を反映しているかどうかを確認する。

試験問題作成の各段階で、香港試験評価局は試験問題の内容を確認・校正する厳密な仕組みを設け、問題の難易度が適切で、印刷ミスや誤字、ラベルの間違いがないようにしている。

3.1.2 機密保持とセキュリティ対策

問題作成委員会の業務は高度な機密性を要するため、委員会のメンバーは機密保持契約に署名し、任命内容や機密情報を権限のない者に漏洩しないこと、及び利益相反を引き起こす可能性のある活動には関与しないことを約束する。

さらに、香港試験評価局の職員や試験業務に携わるすべての者は、試験に関連する情報、資料、または文書にアクセスする場合、利益相反が発生しないことを宣誓する必要がある。この宣誓は、宣誓者の配偶者、近親者、及び同居者や親しい個人的関係者にも適用される。

試験問題の作成に使用されるすべての資料は、紙媒体または電子形式のいずれであっても高度な機密文書として取り扱われる。香港試験評価局は、これらの機密文書のコード化、保管、記録保存及び輸送に関する厳格なセキュリティ基準を設けている。香港試験評価局の職員及び試験業務に携わるすべての者は、これらの機密文書にアクセスする際、厳格なセキュリティ規定を遵守する必要がある。香港試験評価局は、試験問題作成プロセス全体で適切なセキュリティレベルが維持されるよう、オフィスのセキュリティシステムと規則も確立している。

試験問題作成に関与するすべての者は、香港試験及び評価局条例（香港法例第 261 章）の第 15 条に定められた機密保持規定を厳守しなければならない。

これらのすべての措置は、試験問題の内容の機密性を守り、HKDSE が公正かつ公平であることを確保するための香港試験評価局の責任を果たすものである。香港試験評価局は、外部機関（例：「独立反腐敗特別委員会」（Independent Commission against Corruption）、原語：廉政公署）と連携し、すべての機密保持、申告、及び任命手続きを定期的に見直している。

3.2 試験の実施

3.2.1 試験規則

この試験規則には、試験科目、学校受験者及び自修生（浪人生、社会人受験生及び香港教育課程を修了していない受験生）の受験資格、一般的なルール、失格となる状況、成績の報告及び不服申し立て手続きに関する情報が含まれている。受験者は、HKDSE の公平性を確保するために、これらの規則を遵守する必要がある。

3.2.2 共通試験情報センター

受験者が HKDSE の規則や試験の詳細な手続きに精通することを確保するために、香港試験評価局は学校及び受験者に対して試験に関する最新情報を適宜提供している。また、香港試験評価局は共通試験情報センターを設置しており、受験者からの問い合わせ、クレーム、及び試験中の異常事態に対する報告を迅速かつ効果的に処理する連絡窓口として機能している。

信頼性の高い HKDSE を実施するために、試験場では共通試験支援システム（PESS）及び口頭試

録画システム（ORS）が使用されている。

3.2.3 共通試験支援システム（PESS）

共通試験支援システムは、インターネットを介して試験場と香港試験評価局の支援センターを結ぶ運営システムの集合体である。このシステムにより、香港試験評価局の職員は、試験場と常時連絡を取り、必要に応じて試験場主任に対して異常事態に対する即時支援やアドバイスを提供することができる。緊急時には、このシステムを通じてすべての試験場に同時に緊急メッセージや指示を送信することができる。このシステムには、受験者の出席状況の記録、答案用紙の集計、試験の進行記録など、他にも多くの機能が含まれている。

3.2.4 口頭試験録画システム（ORS）

口頭試験が円滑に実施されるよう、香港試験評価局は口頭試験録画システム（ORS）を開発した。このシステムは、受験者の口頭試験のパフォーマンス及び試験手続きを映像で記録するために使用されている。このシステムは、試験中に発生した異常事態やクレーム（例：試験場の騒音や試験時間の不足など）に対応するために役立っている。また、成績の見直しが必要な場合、録画された映像を用いて受験者のパフォーマンスを再評価することができる。このシステムは、HKDSE の英語科目の口頭試験で使用されている。

3.2.5 実地検査と監査

HKDSE を実施するために、学校は試験場を提供し、教師などのスタッフが試験の実施をサポートする。すべての試験場は、共通試験を実施するための適切な設備を備えている必要がある。

HKDSE の公平性と一貫性を維持するために、香港試験評価局は試験業務に関わるスタッフに対して必要な知識を提供する研修や説明会を実施している。また、定期的に試験場の実地検査と監査を行ない、試験場が十分な設備を整え、試験が正常に実施されていることを確認する。

3.2.6 試験の手続きとセキュリティ対策

試験内容の機密性を保つことは、HKDSE の公平性を確保するために不可欠である。そのため、香港試験評価局では、試験実施の前後、さらには試験中において、試験問題の印刷、梱包、保管、輸送、答案の収集及び採点の各段階で、すべての関係者が香港試験評価局の機密保持とセキュリティ規則を厳守することを求めている。これに従って作業が行われることにより、試験の公正性と質が確保される。

3.2.7 特別な教育支援を必要とする受験者のための合理的配慮

香港試験評価局は、すべての受験者に公平な評価を提供することに努めている。合理的配慮（例：解答時間の延長、補助器具の使用、試験問題や解答方法の特別な調整）については、特別支援受験者委員会及び学習障害受験者委員会が共通試験委員会の指針に基づいて審査を行なう。合理的配慮は、特別な支援が必要な受験者（身体的な障害、視覚障害、聴覚障害、言語障害、学習障害など）に適切な試験環境を提供し、他の受験者に対して不公平な影響を与えないように配慮されている。

3.2.8 試験中の異常事態及びクレームの処理

HKDSE の受験者は、試験中に何らかの不满がある場合や、通常とは異なる試験手続きに気付いた場合、以下の方式で香港試験評価局に異常事態を報告したり、クレームを申し立てたりすることができる：1.受験者は試験場で試験場主任にクレームを申し立て、そして申し立ての報告書を香港試験評価局に提出する。2.香港試験評価局のウェブサイトにある特定のフォームを使用して報告することができる。3.手紙、ファックス、または電子メールで香港試験評価局に直接報告することもできる。

試験に関する異常事態報告は、試験終了後に定められた期限内に提出される必要がある。期限を過ぎて提出されたクレームについては、通常受理されない。受験者がクレームを提出する際は、氏名、受験番号、試験場の名前、試験日及び異常事態やクレームに関する詳細を提供する必要がある。香港試験評価局は、すべての異常事態報告を適切に処理するための厳格な調査及び処理メカニズムを確立している。すべてのクレームは、香港試験評価局の共通試験部長が委員長を務める常設委員会で処理される（注：委員会のメンバーは、クレームの案件に関与しない者が選出される）。

常設委員会は、試験期間中に定期的に会議を開催し、証拠が確かな事案については調査を行なう。委員会は、個々のクレームの性質及び状況に応じて、試験場主任、監督者、口頭試験の主任試験官（主考官）、受付係、または試験場内の関連する受験者（該当する場合）に連絡を取る。必要に応じて、委員会は受験者の答案を確認したり、録画映像を調査したり、統計分析を実施する。

簡単な案件については、常設委員会が共通試験委員会の指針に従って処理し、成績発表前に結果を受験者に通知する。

受験者が常設委員会の結論に異議を唱える場合は、通知日から指定された期限内に書面で香港試験評価局に異議を申し立てることができる。常設委員会は案件を共通試験委員会に提出し、さらなる検討を行なう。

罰則を伴う、または特別な考慮が必要な複雑な案件については、常設委員会が報告書を作成し、共通試験委員会に提言を行う。共通試験委員会は、案件の詳細な資料を審査し、最終的な決定を下す。通常、香港試験評価局は、成績発表時に共通試験委員会の決定を該当する受験者に通知する。

3.3 成績の処理及び公表

3.3.1 校内評価 (School-based Assessment, SBA)

概要

校内評価 (SBA) は、HKDSE における重要な評価方法である。校内評価とは、日常の授業と学習の過程において、担当教師が生徒のパフォーマンスを評価することを指す。校内評価のシステムは、学校が香港試験評価局に評価の点数を提出するためのオンラインプラットフォームであり、データの完全性を確保するために使用される。

校内評価は、生徒の学習過程と成果の両方を含めている。校内評価の成績は共通試験の成績に含まれるため、香港試験評価局と学校は校内評価の各段階で次の措置を講じ、評価基準の信頼性と一貫性を確保している。

準備段階

すべての関連科目の校内評価を準備する際に、教師に評価基準に対する理解を促し、校内評価の基礎を築くために、香港試験評価局は以下の措置を講じる：1.校内評価を実施するための詳細なガイドラインを作成し、教師を支援する。2.校内評価の実施前に、教師に十分な専門的な研修を提供する。3.すべての評価活動には、評価の学習目標を明記し、教師には明確な評価基準を提供する。4.教師が参考にできる評価の参考例を作成する。

評価段階

評価プロセス中、香港試験評価局は以下の質保証措置を講じる：1.各教科の校内評価のコーディネーターを任命し、学校が校内評価を実施する際に支援する。2.校内評価に関する会議、ワークショップ、学校間の経験共有イベントを開催し、教師が校内評価の実施に対する理解を深める機会を提供する。3.生徒の評価記録を確認し、生徒のパフォーマンス、教師の評価基準、及び改善が必要な点について学校にフィードバックを提供する。

校内評価 (SBA) の成績調整

校内評価の成績調整とは、学校が評価活動を完了し、香港試験評価局に点数を提出した後に、香港試験評価局が生徒の成績を調整する仕組みである。この調整の主な目的は、校内評価の公平性を確保することである。担当教師は、自分の生徒の能力をよく理解しているため、彼らが生徒のパフォーマンスを評価することが最適である。教師は校内で同じ科目を受講している生徒を評価することで、信頼できる評価を行なうことができる。しかし、評価の過程で教師は他校の生徒のパフォーマンス基準を知らない場合がある。香港試験評価局から校内評価に関する研修コースを提供され、また、同じ評価課題や基準を使用している、一部の教師は他の教師よりも厳格または寛容に点数を付けることが

あり、学校間で成績に差が生じる可能性がある。

このような状況を解消するために、香港試験評価局は校内評価の成績を適切に調整する。香港試験評価局は、学校が提出した成績を調整するために、統計的調整と専門家による判断調整の2つの方法を組み合わせて使用している。

(a) 統計的調整

統計的調整は、その学校の生徒が受けた共通試験の成績を基に、学校全体の校内評価の平均点及び分布を調整する。生徒の校内評価の点数は変更される可能性があるが、学校が評価した生徒の順位は変更されない。香港試験評価局は、生徒の課題をサンプルとして確認し、必要に応じてサンプル確認中に発見された異常な事例について追跡調査を行なう。

(b) 専門家による判断調整

専門家による判断調整では、香港試験評価局が任命した専門家（例：地区コーディネーターや評価者）が、さまざまなレベルの生徒の課題サンプルを確認し、成績の調整幅を提案する。香港試験評価局は、さまざまなパフォーマンスレベルの生徒に対して十分な評価を行なうために、確認すべき課題の量を指定する。必要に応じて、香港試験評価局は学校に追加のサンプルを提供するよう要求することもある。調整後、生徒の校内評価の点数は変更される可能性があるが、学校が評価した生徒の順位は変更されない。

校内評価の一貫性

香港試験評価局は、各学校が提出した校内評価の点数を調整する。同じ年度に複数の教師が同じ科目を担当している場合、学校は教師間で評価基準を一致させるために適切な措置を講じる必要がある。学校が参考にできるいくつかの提案は以下のとおりである：

1. 教師会議を開催し、評価の要件と基準について話し合い、調整する。
2. 各クラスで同じ校内評価課題を設定する。
3. 教師が協力して、生徒の作業のサンプルを共同で採点する。
4. 必要に応じて、全校的な評価の一貫性を保つために、教師の評価を調整する。
5. 参考資料（香港試験評価局が提供するサンプル等）やアーカイブ（過去に評価された生徒の作業のサンプル）を活用し、校内評価基準の統一を図る。

信頼性の確認と不正行為の処理

校内評価の設計及び実施ガイドラインは、教師が生徒の作業の信頼性を確認し、不正行為が発生する可能性を減らすことに役立っている。いくつかの科目では、評価活動の性質で、生徒は授業外での

フィールドワーク、読書、調査、またはその他の活動に参加する必要がある。作業の信頼性を確認するため、作業を段階的に完了させ、重要な段階では教師がガイドラインを設定し、生徒の作業を確認・検証する。各科目の校内評価教師用マニュアルには、どのような状況で評価を行なうべきか、教師が生徒の作業の信頼性を監督及び確認するために適切な措置を講じるための具体的なガイドラインが提供されている。生徒が学術的誠実さを理解し、校内評価を規則に基づいて完了することの重要性を強調するために、学校は校内評価の各年度の開始時に、すべての生徒に作業が自分自身の作品であることを宣誓する書類を作成し、署名させる必要がある。教師は、校内評価の点数を香港試験評価局にオンラインで提出する際、提出された生徒の作業が本人の作品であることを最大限確認すべきである。また、校長は、学校が香港試験評価局の要求と規定に従って校内評価を実施していることを確認すべきである。学校は、生徒に作業とその完全な記録を適切に保存させるべきである。

剽窃はよく見られる違反行為であり、厳しく禁止されている（例：他人が完成した作業を自分のものとして提出したり、インターネットや他の情報源からの内容について、出典を明示せずにコピーしたりすること）。学校はカリキュラムの開始時に、違反行為とは何か、それがもたらす結果を生徒に教えるべきである。適切な監督を通じて、学校は剽窃やその他の違反行為を発見し、疑わしい事例については既定の手順に従って処理することができる。剽窃が確認された場合、生徒には厳しい罰が科せられる。HKDSE 規則では、受験者が試験規則に違反した場合、減点、成績の降格、または該当科目または全科目の試験資格の取消しが科せられる可能性があることが明記されている。

校内評価結果に疑義がある場合の対応

通常、生徒は校内評価結果に疑義がある場合、学校に申し立てることができる。学校は、香港試験評価局に校内評価の点数を提出する前に、こうした疑義に適切に対応しているはずである。学校は既定の手順に従って、生徒の疑義が妥当かどうかを判断し、合理的な期間内に決定を生徒に通知する。共通試験の成績発表後、受験者は香港試験評価局に対して点数確認の申請を行なうことができる（校内評価を含む）。ただし、校内評価の成績に対して再評価の申請を行なうことはできない。

3.3.2 採点プロセス

採点プロセスの公平性と専門性を確保するために、香港試験評価局では、採点の各段階で質保証の手順を確立している。すべての採点者は、採点資格を得るために厳格な研修を受ける必要がある。

香港試験評価局は、オープンかつ透明性のある採点者の募集及び選考制度を設けており、すべての採点作業が資格を有する採点者によって処理されることを保証している。また、経験豊富な採点者と初任採点者の割合も適切に保たれている。試験委員長と副委員長は、それぞれの科目の試験問題について深い理解と豊富な経験を有しており、採点作業の質と信頼性を監督・保証している。

採点基準は、採点者が採点を行なう際に重要な参考資料であり、各問題に対する解答要件、配点、

及び許容される解答範囲を具体的に示している。試験終了後、試験委員長は答案サンプルを選び、採点者に受験者のさまざまな解答方法を説明する。これらのサンプルは、採点基準の統一に役立つ参考情報を提供する。採点基準を共有するために、試験委員長会議と採点者会議が採点作業の初期に行われ、評価基準と採点方法についての共通理解を確立し、採点者が採点開始前に試験問題の評価目標や要件、及び配点方法を一貫して理解できるようにする。

答案の再確認作業は、試験委員長と副委員長が担当し、必要に応じて試験委員長が再確認を行ない、採点の質と各段階における採点者の評価の一貫性を確保する。香港試験評価局は、すべての採点者の配点分布を統計的に分析し、採点の質を検証する。採点が不安定であったり、配点が全体の統計分布から大きく逸脱した場合、その採点者のすべて、または一部の答案は他の採点者に再採点を依頼する。評価記録が良くない採点者については、一時的に採点業務から外されることになる。

オンライン採点システムは、すべての A 科目で採用されており、採点の進捗や結果をリアルタイムで監視できるため、採点の信頼性と質がさらに向上することができる。採点プロセス全体を通じて、試験委員長と副委員長は採点済みの答案を抽出して確認し、定期的に採点者の評価基準と一貫性を監視する。これにより、評価の信頼性と公平性が確保される。また、オンライン採点システムは統計分析機能も備えており、試験委員長と副委員長は必要に応じて迅速かつ効果的に採点者にフィードバックを提供できる。このシステムは、配点ミスリスクを減らすことも可能である。一部の該当試験問題（例：英語及び中国語の作文試験）は、ダブルマーク方式（2 人の採点者が 1 つの答案を評価する方法）で採点され、採点の信頼性がさらに向上できる。

3.3.3 水準設定及び評価メカニズム

HKDSE の成績報告における基準

水準参照の成績報告メカニズムに基づき、受験者の成績は、あらかじめ設定された水準を基準として決定される。

(a) 水準設定と維持

水準は、等級記述に基づいて設定される。HKDSE の 4 級と 5 級の水準は、かつて実施されていた香港高等程度試験の D 級以上の水準を参考にしている。これにより、HKDSE の基準は過去の試験制度と一定の継続性を保ち、高等教育機関での選抜作業を容易にし、国際的な認定を維持することができる。成績ごとの受験者のパフォーマンス例は、それぞれの水準を示し、等級記述と合わせて期待される水準を明確にすることができる。

各 A 科目の等級水準は、専門家グループによって設定されており、年度ごとに各等級の基準スコアが同じ能力水準を表すように保証されている。この過程では、テストデータの分析、等級記述、当年度及び過去の受験者のパフォーマンスレベル、一般的な統計データなどが考慮される。提案された基

準スコアは、共通試験委員会の承認を受けてから、最終的な成績決定に使用される。

このメカニズムにより、特定の要因や試験業務担当者がプロセス全体を支配することではなく、各等級の水準を維持し、「等級インフレーション」が数年後に発生しないようにする。A 科目のすべての科目の 1 級から 5 級の水準は、2012 年の HKDSE で各科目の専門家グループによって設定されたものである。専門家グループは、2013 から関連する試験問題、当年度及び過年度の受験者のパフォーマンスレベル、及びさまざまな統計データを参考にして各等級水準を維持し、年度ごとの試験成績の比較可能性を確保している。もし特定の科目のカリキュラムや評価基準に大きな変更があった場合、香港試験評価局は等級水準を再評価し、適切に調整する。

(b) サンプル試験問題と等級記述

生徒の能力が期待される水準と一致していることを確保するために、香港試験評価局は最初の HKDSE を実施する前に、いくつかの学校でサンプル試験問題を用いた試行プログラムを実施し、さまざまな能力を持つ高校生に参加させた。収集されたパフォーマンスサンプルは分析され、等級記述を作成する基礎として使用された。必要に応じて、かつて実施されていた香港高等程度試験や香港中学会考（訳者註：高校 2 年時試験）の各等級のパフォーマンスも参考にする。サンプル試験問題は、受験者に対する具体的な要求を示している。

各科目の等級記述は、カリキュラム開発部門のメンバー、校長、中学校の教師、大学や業界の専門家など、さまざまな分野から集まったワーキンググループによって作成された。等級記述は、学習成果及び評価目標に基づいて作成されており、これによりカリキュラムと評価の一貫性が保たれる。また、これらの記述は生徒のパフォーマンスサンプルと組み合わせ、水準設定の参考として使用される。等級記述の適用性を確保するために、香港試験評価局は毎年の試験で得られた経験を基に、またカリキュラムや評価の大幅な変更が水準に与える影響を考慮し、適切な時期にこの等級記述を見直す。

評級プロセス

HKDSE の総括的な段階は、各科目の評級である。評級プロセスには以下が含まれている：

1. 採点後に初期の評級提案を議論する。
2. 専門家グループが過去のデータ、受験者の実際のパフォーマンス、統計指標に基づき、各等級の基準スコアを提案する。
3. 内部会議で最終的な評級を決定する。
4. 3 つのコア科目（中国語、英語、数学必修部分）の評級が最初に完了し、その後に選択科目、応用学習科目、公民及び社会発展科目が続く。

(a) コア科目（公民及び社会発展科を除く）

3 つのコア科目である中国語、英語、数学必修部分の評定は、専門家の判断に基づき、受験者の実際の試験パフォーマンスを参照しながら行われる。これには、等級記述、問題の統計データ、及びテスト研究や関連する等値化プロセスが提案した基準スコアが参考にされる。

(b) 選択科目及び公民及び社会発展科

香港試験評価局は、選択科目の評定に「グループ能力指数」を参考にしている。この「グループ能力指数」は、3 つのコア科目の成績を基に算出され、その科目を選択した受験者グループの相対的な能力を示している。評定時に、専門家グループは、選択科目の受験者の実際のパフォーマンスと各問題の統計データに加え、その科目の各等級における「グループ能力指数」を参照し、基準スコアを決定する。また、高等数学や他の選択科目については、特定の評価要件に合わせた特別な配慮が行われる。

(c) 応用学習科目

応用学習科目を履修する受験者は、6～10 個の評価課題を完了する必要がある。これらの形成的及び総括的な評価は、該当するカリキュラム提供機関が担当し、カリキュラムの講師が実施する。香港試験評価局は、提供機関から提出された評価結果を調整し、全体の成績が適切で水準が一致していることを確保する。

3.3.4 試験データの質検査

試験成績を正確かつ効果的に処理し報告するために、以下の主要な段階で質検査及び管理が行われる：1.スコア調整／等値化。2.成績評定。3.成績通知書の印刷。4.証明書の印刷。各段階で、香港試験評価局は、さまざまなシステムを通じて手続き上の誤りがないかを確認する。すべてのデータは正確に処理されるよう検証され、次の主要段階に進む前に上級者による確認が行われ、データの完全性と期待される結果との一致が確保される。

3.3.5 試験成績及び成績に関する問い合わせの処理

成績発表

A 及び B 科目の成績は 7 月に発表され、C 科目の成績は関連試験の実施機関が定めたスケジュールに基づいて発表される。すべての受験者には成績通知書が発行される。すべての科目を欠席した受験者、またはすべての科目で評価なし／基準未達成の成績を受けた受験者を除き、その他の受験者には 10 月に証明書が発行される。

得点確認と答案の再評価

HKDSE には得点確認及び答案の再評価の仕組みがあり、成績発表後、受験者が自分の成績が予想より低いと感じた場合、指定された期限内に香港試験評価局に得点確認または答案の再評価を申請できる。

(a) 得点確認

得点確認の申請は科目ごとに行なわれる。得点確認は、点数の入力ミスやデータの不整合等、技術的な誤りがあるかどうかを確認するためのものである。得点確認の結果にかかわらず、同じ科目で再度答案の再評価を申請することはできない。

(b) 答案の再評価

中国語、英語、数学以外の科目に関しては、答案の再評価の申請は科目ごとに行なう。中国語と英語に関しては、受験者は科目全体またはセクションごとの成績の再評価を選択することができる。数学では、必修部分とさらにレベルの高い数学科目（該当する場合）を両方再評価するか、どちらか一方のみを選択して再評価を申請できる。科目の一部のみの再評価を申請した場合、香港試験評価局はその科目の他の部分について得点確認を行なうが、再評価は行わない。

科目はまず得点確認を経て、技術的な誤りがないか確認された後、再評価が行われる。「単一採点制」が採用されている試験の場合、答案は 1 人の再評価採点者によって再評価される。客観的に採点される問題（例：マッチング問題や正誤問題）や総得点が少ないものについては、再評価の結果が元の採点者と異なる場合、2 人目の再評価採点者がその答案を再評価する。他の問題についても、再評価の点数が元の点数と大きく異なる場合、2 人目の再評価採点者が再評価を行います。「二重採点制」が採用されている筆記試験では、再評価後の点数が元の点数と許容範囲を超えて差がある場合、その答案は 2 人目の再評価採点者が再評価する。口頭試験の場合、受験者の口頭試験の録画が再評価主任によって再評価される。

香港試験評価局は、答案の再評価及び口頭試験の録画の再評価を行なう際、できる限り元の採点者や主任試験官とは別の採点者や主任試験官が担当するようにしている。再評価は、B 及び C の科目、A 科目の校内評価部分、多肢選択問題の試験問題には適用されない。

(c) 得点確認及び答案再評価後の成績

得点確認により技術的なエラーが発見された場合、修正後の科目／セクションの得点がより高い等級の基準点に達すれば、その科目／セクションの成績が向上することになる。

採点作業は専門的な判断を伴うものであり、特に自由記述式の問題の再評価では、採点環境の変化により、同じ答案でも再評価時の得点が元の得点と異なる場合がある。そのため、答案の再評価後の

最終得点は、元の採点者と再評価採点者のすべての有効な得点の平均値を取る。最終得点がより高い等級の基準点を上回れば、その科目／セクションの等級が向上することになる。再評価後に成績が下がることは通常ないため、この等級向上の基準は、すべての受験者の等級の信頼性を保つものである。

個人情報の開示申請

個人情報条例に基づき、受験者は必要に応じていつでも香港試験評価局に試験に関連する個人情報の開示を申請することができる。受験者に関連する個人情報には、各問題や項目の得点、採点者のコメントが含まれる。これらの情報は、関連する試験手続きが完了した後、答案が廃棄される前に申請者に提供される。

不服申し立て審査

受験者が共通試験委員会によるクレーム、あるいは異常事態の処理結果に異議を持つ場合、または得点確認及び答案再評価が既定の手順に従って行われたかについて合理的な疑念がある場合、指定された期限内に不服申し立て審査を申請することができる。また、同じ科目について成績確認手続きを経ず、個人情報の開示により答案のコピーを取得し、採点に誤りがあることを示す十分な根拠を提供できる場合は、答案を取得後の指定された期間内に答案採点に対して不服申し立て審査を申請することができる。これらの申請は不服申し立て審査委員会によって処理される。不服申し立て審査委員会、香港試験評価局委員会によって任命された独立委員会である。

(a) 不服申し立て審査の種類

- ・試験中の異常事態の処理
- ・成績確認手続き
- ・個人情報の開示を通じて取得した答案の採点確認の要求

(b) 不服申し立て審査申請の結果

不服申し立て審査委員会の決定は、各ケースにおいて最終決定である。受験者は指定された日付までに不服申し立て審査申請の結果を通知される。

3.3.6 フィードバックサービス

学校へのフィードバック

毎年の試験後、香港試験評価局は学校に対して以下のフィードバックサービスを提供し、学校が評価基準や受験者の試験パフォーマンスをより深く理解できるよう支援している。

(a) 校内評価のスコア調整報告

教師が校内評価の採点作業を改善できるように、香港試験評価局は各学校に校内評価のスコア調整報告を提供する。この報告書には、学校が提出した校内評価のスコアがどの程度調整されたかが詳細に記載されており、学校の校内評価の平均点やスコアの分布が期待範囲内かどうかについてフィードバックが提供される。必要に応じて、学生のパフォーマンス評価において改善が必要な学校には、さらに指導やアドバイスが行われる。

(b) 香港中等教育修了資格試験学校統計報告書

この報告書には、受験者の成績統計が詳細に記載されており、グラフや表を通じて校長が学校の生徒の成績を他の学校の受験者と直接比較することができる。また、この報告書は、教師が個々の項目のパフォーマンスを比較することで、生徒の相対的な強みや弱みを特定し、指導の方向性を見直す際に役立っている。学校はこの報告書を活用し、教育戦略の開発や指導計画の調整に役立てることができる。

学校及び一般向けのフィードバック

上記の学校向けフィードバックに加え、香港試験評価局は学校、生徒、及びその他のステークホルダーが試験の評価基準や受験者のパフォーマンスを理解できるよう、さまざまな種類のフィードバックを提供している。

(a) 香港中等教育修了資格試験の試験問題集（採点基準及び受験者パフォーマンスに関するコメント付き）

毎年の試験後、香港試験評価局は各科目の試験問題集を発行し、その科目の評価目標を明示している。さらに、試験問題、採点基準、及び受験者のパフォーマンスに関するコメントが含まれている。

(b) 受験者のパフォーマンス例

香港試験評価局は、実際の受験者の答案を選び、各等級の典型的なパフォーマンスを示す例として使用している。これにより、一般の人々が HKDSE の水準を理解するのに役立っている。

(c) 香港中等教育修了資格試験報告書

この報告書は、毎年の HKDSE に関する情報を提供しており、試験の手続き概要、試験運営の手配、試験統計データなどが含まれている。

3.4 試験後のレビュー

世界的に有名な試験・評価サービス機関となるためには、香港試験評価局は、信頼性、公平性、妥当性のある試験・評価サービスを提供しなければならない。各試験問題を担当する職員は、定められた手順やガイドラインを遵守する必要がある。試験問題の作成、試験の実施、答案の採点に関する既存の手順に加え、以下の措置を通じて試験問題の質が保証されている：1.海外での試験問題と答案の審査。2.試験後のレビュー。3.内部監査とリスクモニタリング。4.試験問題の質審査。5.試験後の内部レビュー会議。

3.4.1 海外での試験問題と答案の審査

毎年、香港試験評価局は一部の A 科目の受験者の答案サンプルを、試験問題及び採点基準とともに海外の評価機関に送付する。この目的は、試験問題、採点基準、受験者のパフォーマンス、及び採点や評定水準を海外の試験と比較し、フィードバックを収集して試験の改善を図り、HKDSE が国際的な試験水準に匹敵することを確保するためである。

3.4.2 試験後のレビュー

毎年、試験終了後、科目委員会は定期的な会議を開き、試験問題と採点基準を見直す。このプロセスでは、試験データ、試験委員長の受験者パフォーマンスに対するコメント、さらには学校や個人からのクレームや香港試験評価局の対応（該当する場合）などの関連情報も参照する。このレビューは、試験問題や採点基準の質を向上させるために非常に重要である。試験問題と採点基準の各側面も見直される。これには、評価の目的と目標、範囲、レベル、基礎知識やスキルと高次能力のバランス、用語の適切さ、採点基準の明確さと適切さ、選択問題間の比較、試験問題の中国語版と英語版の一貫性などが含まれている。

毎年の試験終了後、香港試験評価局はアンケート調査を実施し、ステークホルダーからの意見を収集する。これらの調査には以下が含まれている：1.すべての A 科目の評価大綱、共通試験、校内評価（該当する場合）に関する学校調査。2.受験者に対する試験全体の運営に関する調査。3.試験問題、受験者のパフォーマンス、採点及び口頭試験手順・運営に関与する採点者、口頭試験主任試験官に対する調査。4.校内評価の運営に関する学校調査。

ステークホルダーからのフィードバックは、試験の改善に非常に重要である。毎年の試験後、さまざまなルートから収集された意見は、試験後のレビューにおいて慎重に検討される。

3.4.3 内部監査及びリスクモニタリング

定められた規則及びガイドラインが遵守されていることを確認するため、香港試験評価局は、リスクと利益を考慮したアプローチで定期的に内部監査を実施している。また、香港試験評価局のリスク

管理システムに基づき、HKDSE に関連する主要なリスクを定期的にモニタリングしている。予測不能な事態が発生した際の影響を最小限に抑えるために、リスク軽減措置（例：対応策や予備の手配）を策定しており、リスクを許容範囲内に管理し、試験プロセスの継続的な改善を目指している。

3.4.4 試験問題の質審査

上述のとおり、試験終了後、香港試験評価局は試験問題の設計及び試験の実施に関して試験レビューを行なう。評価の質を保証するためのプラットフォームを使用して試験問題を分析し、各科目のマネージャーは分析結果、採点の統計データ及びその他のフィードバックを確認し、今後改善すべき点を特定する。

これらのレビューは、心理測定の観点から改善される。適切な分析技術は、試験問題の妥当性、信頼性、公平性等、試験問題の心理測定特性の検討に適用され、個々の試験問題の有効性を評価するために利用される。さらに、香港試験評価局は、基準点に関連するスコアと基準設定の計算手順も見直す。試験問題の質審査では、次の点が考慮されている：1.科目専門家の意見に基づく試験問題の質の詳細なレビュー。2.試験データの分析、3.統計及び計算手順の研究。

毎年、一部の A 科目の試験問題を選び、以下の範囲で詳細な質審査が行われる：

1. 該当試験問題の構造と次元
2. 現代の評価技術を用いたデータ分析
3. 当年度の同科目の他の試験問題及び過去の試験問題との比較（該当する場合）

試験問題の質量審査の結果は、必要に応じて科目委員会に提出され、試験レビューの際の参考資料として活用される。

3.4.5 内部試験レビュー会議

毎年、試験終了後に香港試験評価局は部門横断的な内部レビュー会議を実施する。この会議では、共通試験の各段階で発生した重要な問題について議論・レビューし、改善が必要な点を特定する。

参考文献・資料

香港試験評価局（2023）香港中學文憑考試質素保證框架、

https://www.hkeaa.edu.hk/DocLibrary/Media/Leaflets/QA_Framework_chi.pdf (2024 年 10 月 22 日付最終アクセス)